

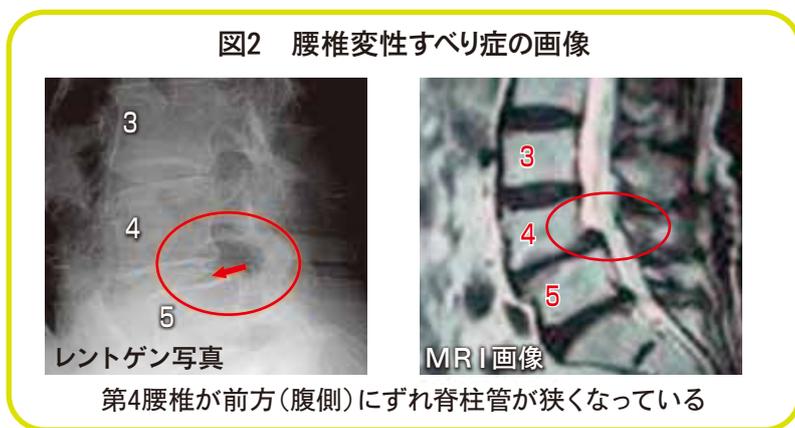
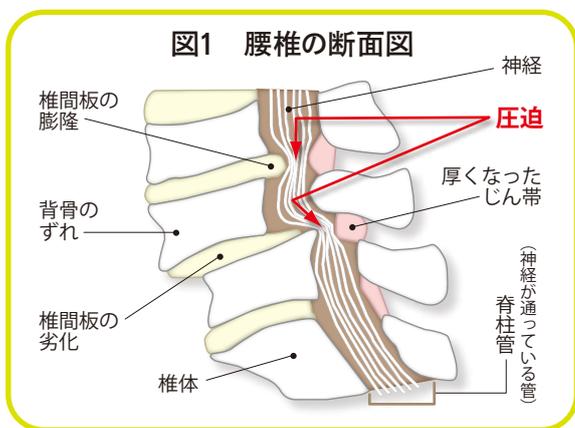
腰部脊柱管狭窄症・腰椎変性すべり症に対する治療法

ブリフ
PLIF (後方進入腰椎椎体間固定術)

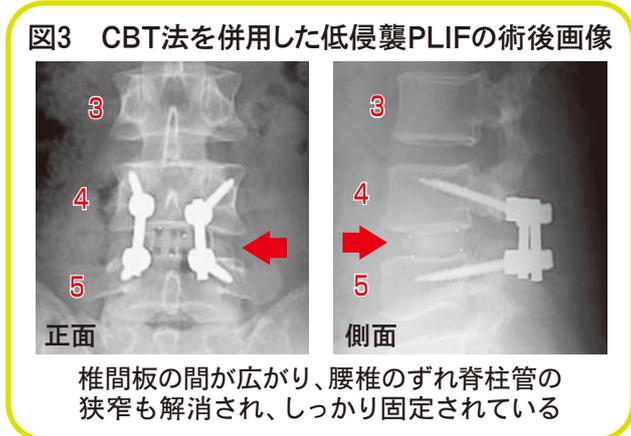
整形外科 坂浦 博伸

■腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症とは？

最近、新聞、テレビなどでもよく取り上げられていますが、腰部脊柱管狭窄症とは腰椎(腰の背骨)の加齢現象により脚の神経の通り道(腰部脊柱管)が狭くなり神経が圧迫された結果(図1)、おもに脚の痛み、しびれや脱力を生じ長く歩けなくなる病気です。特徴として、ある程度歩くと脚の痛み、しびれや脱力が出現し、腰を前に曲げて休息すると症状が楽になり、またある程度歩くと症状が出る(間欠跛行)といったことがあげられます。一部の患者様では腰椎が前にずれる(腰椎変性すべり症、図2)など腰椎のぐらつき(不安定性)を伴う場合もあります。



■当院における後方進入腰椎椎体間固定術(PLIF)の工夫



お薬の内服やブロック注射による治療を行っても、症状が良くならない場合には手術を行うことがあります。当院では、腰椎変性すべり症など腰椎のぐらつきを伴う腰部脊柱管狭窄症に対しては、背中側から切開し、腰の骨を一部切除して脊柱管を後方から広げ、さらに腰の骨と骨の間の軟骨(椎間板)を切除し、椎間板を切除した隙間に切除した骨を埋め込む「**後方進入腰椎椎体間固定術(PLIF)**」を採用しています。術後早期からリハビリテーションを開始するため、また埋め込んだ骨を確実にくっつけるために、PLIFではスクリューで腰椎を固定します。当院では2011年9月より国内でもいち早く「**CBT法**」によるスクリュー固定を採用しています(図3)。

この方法では従来の方法と比較して、より**小さな傷(6cm程度)**で、背中中の筋肉の切開範囲を減らし、手術する部位の隣の腰椎の関節を傷つけることなく(低侵襲に)手術を行うことができるため、**術中や術後出血量の減少、術後の痛み軽減**などが期待できます。腰部脊柱管狭窄症でお悩みの方は、専門医にご相談ください。

関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者様の権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実と励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。



イメージキャラクター
かんろっこ